

真理を見分け良い走りをする ガラテヤ 5:7-12

1. あなたがたはよく走っていたのに、だれがあなたがたを妨げて、真理に従わなくさせたのですか。
(ガラテヤ 5:7-12)
 - a. 聖霊に満たされた良い人生の走りをするには偽りの中から真理を見分けられるようになる必要がある。サタンは偽りの父であり、私たちが嘘の中で生きていたら人生は無駄になってしまふ。
 - b. 真理とはフィクションの中のできごとでもないし、事実として述べられていること（たとえそれが聖書の記述だとしても）を実践すること以上のことである。例えば「割礼」は聖書に述べられている真実の記述である。
 - c. 真理とはイエスという名の人物のことである。彼の声聞き、従うことだけが、神からの報酬を受けることができる道である。
2. そのような勧めは、あなたがたを召してくださった方から出たものではありません。(ガラテヤ 5:8)
 - a. 人々が良い走りをやめてしまった理由の一つは、イエス様以外の者からそそのかされ、彼の霊（聖霊）以外のものに導かれてしまったからである。
 - b. 誰かからある方向へ説得されそうになったら、それが聖霊からの導きと一致しているかどうか見極めることが大切。「これによって神様、また他の人への愛が増しているか?」ということが見極めの一つの基準となる。
 - c. 福音書の中にも、善良な人々が悪意を持った少数の者からそそのかされた例が出てくる。しゅろの日曜日に集っていた群衆はイエスをメシアだと認めていたにもかかわらず、その後イエスを十字架に付けるよう説き伏せられた。
3. わずかのパン種が、こねた粉の全体を発酵させるのです。(ガラテヤ 5:9)
 - a. 真理を見分けることは時として難しい。というのは、巧みな嘘というのは多くの真実の中に潜んでいたり、信頼できるように見える情報を通して来るからである。例として、祭司長、長老たちは群衆を説きつけたのでイエスは十字架に付けられた(マタイ 27:20)。
 - b. 神に代わろうとする良いものがあるということも覚えておく必要がある。アダムとエバが食べた果実の木は善と悪の木であった。悪の中にある破壊的な部分は容易に見分けられるが、良いものの中に潜む有害な部分というのは見過ごしやすい。良いものが神に代わろうとする時、それは有害なものになる。
4. 私は主にあって、あなたがたが少しも違った考えを持っていないと確信しています。しかし、あなたがたをかき乱すものは、だれであろうと、さばきを受けるのです。(ガラテヤ 5:10)
 - a. 心から神に従おうとする者は神の権威によっていずれは真理を見るが、遅いよりは早く気付くほうが良い。
 - b. 心から真理を追究しない者はいずれはその代価を払うことになる。永遠の世界のこちら側で神様のさばきを理解することは良い走り続けるための確実な道である。
5. 兄弟たち。もし私が今でも割礼を宣べ伝えているなら、どうして今なお迫害を受けることがありますでしょう。それなら、十字架のつまずきは取り除かれているはずです。(ガラテヤ 5:11)
 - a. 良い走りは迫害を駆り立てる。あなたを迫害しようとする者は大抵ひとりよがりでああなたの人生を自分の計画にはめ込もうとする。私たちも他の人の人生に自分の計画を押し付けないように気を付けなければならない。
 - b. 十字架のメッセージはこの世の価値観とは相反するのでつねにつまずきの石となる。しかしそのメッセージは十字架を受け入れようとする人々に私たちがリーチアウトする際に証となる。もしあなたの人生が十字架のすばらしさの生きた証となっていなければメッセージはつまずきの石となってしまう。